

【僅かな工夫で一目瞭然！連結仕訳の意図】※当期純利益と剰余金の配当の時間的矛盾は無視して下さい。

- 前提 1. S社はP社 400 円(80%)、A社 100 円(20%)の共同出資により設立された。なお、出資額は全額資本金とされた。  
 2. 第1年度S社当期純利益は 1,000 円であった。∴ S社資産増加 → P社持分 800 円(80%)増加 A社持分 200 円(20%)増加。  
 3. " S社剰余金配当は 500 円であった。∴ S社資産減少 → P社持分 400 円(80%)減少 A社持分 100 円(20%)減少。

P社連結仕訳(80%)

◆ 連結第1年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
		非支配株主持分当期首残高	100

◆ S社当期純利益 1,000 円

非支配株主に帰属する当期純利益	200	非支配株主持分当期変動額	200
A社持分(+)		A社持分(+)	

◆ S社剰余金の配当 500 円

受取配当金	400	剰余金の配当	500
P社持分(-)		S社個別消去	
非支配株主持分当期変動額	100		
A社持分(-)			

↓

◆ 連結第2年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
利益剰余金当期首残高	100	非支配株主持分当期首残高	200

A社持分法仕訳(20%)

◆ 持分法第1年度開始仕訳

仕訳なし

◆ S社当期純利益 1,000 円

S社株式	200	持分法による投資損益	200
A社持分(+)		A社持分(+)	

◆ S社剰余金の配当 500 円

受取配当金	100	S社株式	100
A社持分(-)		A社持分(-)	

↓

◆ 持分法第2年度開始仕訳

S社株式	100	利益剰余金当期首残高	100
A社持分純増：200-100		A社持分純増：200-100	

※ 連結上、◆ S社剰余金の配当 500 円の処理は個別消去→各者持分(-)であるが、◆ S社当期純利益 1,000 円の処理はA社持分(+のみ)である。

従って、◆ S社当期純利益 1,000 円の処理が個別消去→各者持分(+ではなく、一連の連結仕訳に①首尾一貫性・整合性がない。

以上、P社持分の(+処理がない為、資本連結一巡の仕訳だけではP社持分の増減計算が出来ず、②持分法の仕訳との整合性がない。

結果、翌期の開始仕訳においてもP社持分だけが把握し難く、仕訳の意図が学習者に伝わらない為、苦手意識が生まれて来る訳です。

前項の欠点を克服する為には、以下の工夫を行います。なお、正規の処理ではないので、あくまでも理解の為のものとお考え下さい。

◆ S社当期純利益 1,000 円の処理の冒頭に「**当期純利益 1,000** 当期純利益 1,000」の仕訳を追加する。

◆ 連結第 2 年度開始仕訳において「**(借)利益剰余金当期首残高 500**」と「**(貸)利益剰余金当期首残高 400**」を相殺しないでおく。

以上より、一貫して「個別消去→持分按分」の処理が確保され、P社持分の増減計算も可能となるので、仕訳の意図も一目瞭然となります。

P社連結仕訳 (80%)

◆ 連結第 1 年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
<small>S社個別消去</small>		<small>P社持分当期首残高</small>	
		非支配株主持分当期首残高	100

◆ S社当期純利益 1,000 円 (1,000 - 200 = P社持分(+))800)

<b>当期純利益 1,000</b>	<b>当期純利益 1,000</b>
<small>S社個別消去</small>	<small>連結振替</small>
非支配株主に帰属する当期純利益	非支配株主持分当期変動額
<small>A社持分(+)</small> 200	<small>A社持分(+)</small> 200

◆ S社剰余金の配当 500 円

<b>受取配当金 400</b>	<b>剰余金の配当 500</b>
<small>P社持分(-)</small>	<small>S社個別消去</small>
非支配株主持分当期変動額	
<small>A社持分(-)</small> 100	



◆ 連結第 2 年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	<b>P社(親会社)持分当期首残高</b>	
<small>S社個別消去</small>		<b>S社株式 400</b>	
		<small>取得原価</small>	
<b>利益剰余金当期首残高</b>	<b>500</b>	<b>利益剰余金当期首残高 400</b>	
<small>S社個別消去: 1,000 - 500</small>		<small>P社持分純増: 1,000 - 200 - 400</small>	
		非支配株主持分当期首残高	200
		<small>前期首残高 + A社持分純増</small>	

A社持分法仕訳 (20%)

◆ 持分法第 1 年度開始仕訳

仕訳なし

◆ S社当期純利益 1,000 円

S社株式 200	持分法による投資損益	200
<small>A社持分(+)</small>	<small>A社持分(+)</small>	

◆ S社剰余金の配当 500 円

<b>受取配当金 100</b>	S社株式 100
<small>A社持分(-)</small>	<small>A社持分(-)</small>



◆ 持分法第 2 年度開始仕訳

S社株式 100	利益剰余金当期首残高	100
<small>A社持分純増: 200 - 100</small>	<small>A社持分純増: 200 - 100</small>	

※ 持分法での S社株式評価額: 200 円 = 100 円 + 100 円  
取得原価 + A社持分純増

P社連結仕訳(80%)

◆ 連結第1年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
		<small>S社個別消去</small>	<small>P社持分当期首残高</small>
		非支配株主持分当期首残高	100

◆ S社当期純利益 1,000円 (1,000 - 200 = P社持分(+))800)

当期純利益	1,000	当期純利益	1,000
<small>S社個別消去</small>		<small>連結振替</small>	
非支配株主に帰属する当期純利益	200	非支配株主持分当期変動額	200
<small>A社持分(+)</small>		<small>A社持分(+)</small>	

◆ S社剰余金の配当 500円

受取配当金	400	剰余金の配当	500
<small>P社持分(-)</small>		<small>S社個別消去</small>	
非支配株主持分当期変動額	100		
<small>A社持分(-)</small>			



◆ 連結第2年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
		<small>S社個別消去</small>	<small>取得原価</small>
利益剰余金当期首残高	500	利益剰余金当期首残高	400
<small>S社個別消去: 1,000 - 500</small>		<small>P社持分純増: 1,000 - 200 - 400</small>	
		非支配株主持分当期首残高	200
		<small>前期首残高 + A社持分純増</small>	

P社(親会社)持分当期首残高

S社株式	400
利益剰余金	400

【 S社時系列表 】

	Start	連結第1年度	End
資本金	500		500
利益剰余金	—	当期純利益 +1,000	<u>500</u>
		剰余金の配当 ▲ 500	
合 計	<u>500</u>	<u>+ 500</u>	<u>1,000</u>
		S社個別消去	
		↓	
		連結振替	
非支配株主持分(20%)	100	非支配株主~当期変動額 + 200	200
		非支配株主~当期変動額 ▲ 100	
P社(親会社)持分(80%)	<u>400</u>	<u>+ 800</u>	<u>800</u>
		受取配当金 ▲ 400	
S社株式	400		400
利益剰余金(取得後剰余金)	—	親会社株主~当期純利益 + 400	<u>400</u>

※ 以上のS社個別消去→連結振替によってS社B/Sの自己資本(純資産)は、親会社持分と非支配株主持分と言う株主の取り分に置き換えられます。

【僅かな工夫で一目瞭然！連結仕訳の意図】色分けなし。※当期純利益と剰余金の配当の時間的矛盾は無視して下さい。

- 前提 1. S社はP社 400 円(80%)、A社 100 円(20%)の共同出資により設立された。なお、出資額は全額資本金とされた。
2. 第 1 年度 S 社当期純利益は 1,000 円であった。∴ S 社資産増加 → P 社持分 800 円(80%)増加 A 社持分 200 円(20%)増加。
3. " S 社剰余金配当は 500 円であった。∴ S 社資産減少 → P 社持分 400 円(80%)減少 A 社持分 100 円(20%)減少。

P 社連結仕訳 (80%)			
◆ 連結第 1 年度開始仕訳			
資本金当期首残高	500	S 社 株 式	400
		非支配株主持分当期首残高	100
◆ S 社当期純利益 1,000 円			
非支配株主に帰属する当期純利益	200	非支配株主持分当期変動額	200
	A 社持分(+)		A 社持分(+)
◆ S 社剰余金の配当 500 円			
受 取 配 当 金	400	剰 余 金 の 配 当	500
	P 社持分(-)		S 社個別消去
非支配株主持分当期変動額	100		
	A 社持分(-)		
		↓	
◆ 連結第 2 年度開始仕訳			
資本金当期首残高	500	S 社 株 式	400
利益剰余金当期首残高	100	非支配株主持分当期首残高	200

A 社持分法仕訳 (20%)			
◆ 持分法第 1 年度開始仕訳			
仕 訳 な し			
◆ S 社当期純利益 1,000 円			
S 社 株 式	200	持分法による投資損益	200
	A 社持分(+)		A 社持分(+)
◆ S 社剰余金の配当 500 円			
受 取 配 当 金	100	S 社 株 式	100
	A 社持分(-)		A 社持分(-)
		↓	
◆ 持分法第 2 年度開始仕訳			
S 社 株 式	100	利益剰余金当期首残高	100
	A 社持分純増：200-100		A 社持分純増：200-100

※ 連結上、◆ S 社剰余金の配当 500 円の処理は個別消去→各者持分(-)であるが、◆ S 社当期純利益 1,000 円の処理は A 社持分(+のみ)である。従って、◆ S 社当期純利益 1,000 円の処理が個別消去→各者持分(+ではなく、一連の連結仕訳に①首尾一貫性・整合性がない。以上、P 社持分の(+処理がない為、資本連結一巡の仕訳だけでは P 社持分の増減計算が出来ず、②持分法の仕訳との整合性がない。結果、翌期の開始仕訳においても P 社持分だけが把握し難く、仕訳の意図が学習者に伝わらない為、苦手意識が生まれて来る訳です。

前項の欠点を克服する為には、以下の工夫を行います。なお、正規の処理ではないので、あくまでも理解の為のものとお考え下さい。

◆ S社当期純利益 1,000 円の処理の冒頭に「当期純利益 1,000 当期純利益 1,000」の仕訳を追加する。

◆ 連結第 2 年度開始仕訳において「(借)利益剰余金当期首残高 500」と「(貸)利益剰余金当期首残高 400」を相殺しないでおく。

以上より、一貫して「個別消去→持分按分」の処理が確保され、P社持分の増減計算も可能となるので、仕訳の意図も一目瞭然となります。

P社連結仕訳 (80%)

◆ 連結第 1 年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社個別消去	S社株式会社	400	P社持分当期首残高
					非支配株主持分当期首残高
					100

◆ S社当期純利益 1,000 円 (1,000 - 200 = P社持分(+))800)

当期純利益	1,000	S社個別消去	当期純利益	1,000	連結振替
					非支配株主に帰属する当期純利益
					200
					A社持分(+)
					非支配株主持分当期変動額
					200
					A社持分(+)

◆ S社剰余金の配当 500 円

受取配当金	400	P社持分(-)	剰余金の配当	500	S社個別消去
					非支配株主持分当期変動額
					100
					A社持分(-)

↓

◆ 連結第 2 年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社個別消去	S社株式会社	400	P社(親会社)持分当期首残高
					取得原価
					利益剰余金当期首残高
					400
					P社持分純増: 1,000 - 200 - 400
					非支配株主持分当期首残高
					200
					前期首残高 + A社持分純増

A社持分法仕訳 (20%)

◆ 持分法第 1 年度開始仕訳

仕訳なし

◆ S社当期純利益 1,000 円

S社株式会社	200	A社持分(+)	持分法による投資損益	200	A社持分(+)
--------	-----	---------	------------	-----	---------

◆ S社剰余金の配当 500 円

受取配当金	100	A社持分(-)	S社株式会社	100	A社持分(-)
-------	-----	---------	--------	-----	---------

↓

◆ 持分法第 2 年度開始仕訳

S社株式会社	100	A社持分純増: 200 - 100	利益剰余金当期首残高	100	A社持分純増: 200 - 100
--------	-----	-------------------	------------	-----	-------------------

※ 持分法での S社株式評価額: 200 円 = 100 円 + 100 円  
取得原価 + A社持分純増

P社連結仕訳(80%)

◆ 連結第1年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
		P社持分当期首残高	
		非支配株主持分当期首残高	100

◆ S社当期純利益 1,000円 (1,000 - 200 = P社持分(+))800)

当期純利益	1,000	当期純利益	1,000
	S社個別消去		連結振替
非支配株主に帰属する当期純利益	200	非支配株主持分当期変動額	200
	A社持分(+)		A社持分(+)

◆ S社剰余金の配当 500円

受取配当金	400	剰余金の配当	500
	P社持分(-)		S社個別消去
非支配株主持分当期変動額	100		
	A社持分(-)		



◆ 連結第2年度開始仕訳

資本金当期首残高	500	S社株式	400
	S社個別消去		取得原価
利益剰余金当期首残高	500	利益剰余金当期首残高	400
	S社個別消去: 1,000 - 500		P社持分純増: 1,000 - 200 - 400
		非支配株主持分当期首残高	200
			前期首残高 + A社持分純増

【 S社時系列表 】

	Start	連結第1年度	End
資本金	500		500
利益剰余金	—	当期純利益 +1,000	<u>500</u>
		剰余金の配当 <u>▲ 500</u>	
合 計	<u>500</u>	<u>+ 500</u>	<u>1,000</u>
		S社個別消去	
		↓	
		連結振替	
非支配株主持分(20%)	100	非支配株主~当期変動額 + 200	200
		非支配株主~当期変動額 <u>▲ 100</u>	
P社(親会社)持分(80%)	<u>400</u>	+ 800	<u>800</u>
		受取配当金 <u>▲ 400</u>	
S社株式	400		400
利益剰余金(取得後剰余金)	—	親会社株主~当期純利益 <u>+ 400</u>	<u>400</u>

※ 以上のS社個別消去→連結振替によってS社B/Sの自己資本(純資産)は、親会社持分と非支配株主持分と言う株主の取り分に置き換えられます。

【僅かな工夫で一目瞭然！連結仕訳の意図】練習用。※当期純利益と剰余金の配当の時間的矛盾は無視して下さい。

前提 1. S社はP社 400 円(80%)、A社 100 円(20%)の共同出資により設立された。なお、出資額は全額資本金とされた。

2. 第 1 年度 S 社当期純利益は 1,000 円であった。∴ S 社資産増加 → P 社持分 800 円(80%)増加 A 社持分 200 円(20%)増加。

3. " S 社剰余金配当は 500 円であった。∴ S 社資産減少 → P 社持分 400 円(80%)減少 A 社持分 100 円(20%)減少。

P 社連結仕訳 (80%)

◆ 連結第 1 年度開始仕訳

---

---

◆ S 社当期純利益 1,000 円

---

◆ S 社剰余金の配当 500 円

---

---



◆ 連結第 2 年度開始仕訳

---

---

A 社持分法仕訳 (20%)

◆ 持分法第 1 年度開始仕訳

---

---

◆ S 社当期純利益 1,000 円

---

◆ S 社剰余金の配当 500 円

---

---



◆ 持分法第 2 年度開始仕訳

---

---

※ 以下の処理は正規の処理ではなく、あくまでも理解の為のものとお考え下さい。

P社連結仕訳 (80%)

◆ 連結第1年度開始仕訳

---

◆ S社当期純利益 1,000円

当 期 純 利 益 1,000 当 期 純 利 益 1,000  
S社個別消去 連結振替

---

◆ S社剰余金の配当 500円

---

◆ 連結第2年度開始仕訳



P社(親会社)持分当期首残高

利益剰余金当期首残高  
S社個別消去:

利益剰余金当期首残高  
P社持分純増:

---

A社持分法仕訳 (20%)

◆ 持分法第1年度開始仕訳

---

◆ S社当期純利益 1,000円

---

◆ S社剰余金の配当 500円

---

◆ 持分法第2年度開始仕訳



---

※ 持分法でのS社株式評価額:



P社連結仕訳(80%)

◆ 連結第1年度開始仕訳

◆ S社当期純利益 1,000円	
当 期 純 利 益 1,000 S社個別消去	当 期 純 利 益 1,000 連結振替

◆ S社剰余金の配当 500円

◆ 連結第2年度開始仕訳	↓	P社(親会社)持分当期首残高
利益剰余金当期首残高 S社個別消去:		利益剰余金当期首残高 P社持分純増:

【 S社時系列表 】

	Start	連 結 第 1 年 度	E n d
資 本 金	500		500
利 益 剰 余 金	—	当 期 純 利 益 +1,000 剰 余 金 の 配 当 ▲ 500	—
合 計	<u>500</u>	+	<u>—</u>
	S社個別消去 ↓ 連 結 振 替		
非支配株主持分(20%)		非支配株主~当期変動額 +	
		非支配株主~当期変動額 ▲	
P社(親会社)持分(80%)		+	<u>—</u>
S 社 株 式		▲	<u>—</u>
利益剰余金(取得後剰余金)	—	+	<u>—</u>